

支え、支えられて

「バザールカフェという居場所」

評議員 マーサメンセンディーク

「バザールカフェ」という非営利カフェをご存知でしょうか？ 京都市上京区、同志社大学の近くにあるヴォーリズ建築の洋館。建物脇のアプローチを奥へ進むと、大きな庭とテラス、そしてカフェの入り口にたどり着きます。中に入ると古い木の床と暖炉が温かい雰囲気醸し出す、ちょっと不思議な、でも落ち着く空間です。

バザールカフェは、日本キリスト教団京都教区と北アメリカ合同教会との協働事業として、1998年から運営を開始しました。様々な異なる背景を持つ人々が安心して集える場所を創りたいと、HIV陽性者や滞日外国人の支援者、差別や

抑圧の問題に取り組んで来た教会、市民団体、活動家、アーティストなどが設立に関わりました。そして、北アメリカ合同教会は以下の理念に共感し宣教師館を活動の場として提供しました。

1. セクシュアリティ、年齢、国籍、病気など様々な現実には生きていく人々がありのままの姿で受け入れられ、それぞれの価値観が尊重され、社会の中で共に生きる存在であることが相互に確認される場を目指す。そして、これらが個人の1つの特徴であることが、当たり前を受け入れられる社会となるためのきっかけ作りを目的とする。
2. 従来のカフェ（喫茶店）

の概念を拡げ、人が出会う、交流し、情報を交換し、多様な活動への窓口になると同時に、様々な事情を持つ滞日外国人、病いを抱える人たちなど社会参加の機会が少ない人たちに就労の機会を提供し、また、社会問題を学ぶ機会を学生に提供していくことを目的とする。

主な活動内容は、雇用の場としてのカフェ運営と、市民活動のネットワーク作りです。例えば、京都DARC（薬物依存症回復支援施設）の仲間は庭での共同作業から始まり、現在では就労訓練も兼ねてバザールカフェで働くようになっていきます。HIV陽性者やセクシュアルマイノリティの人たちの交流会、当事者も支援者も共に自分の思いを話せる場としての「ケアカフェ」、地域のお母さんと子どもたちや高齢者のプログラム、矯正施設出所者の支援者の勉強会とネットワーク作りも行っています。また、スピリチュアルケアとしてのバイブルシェアリン

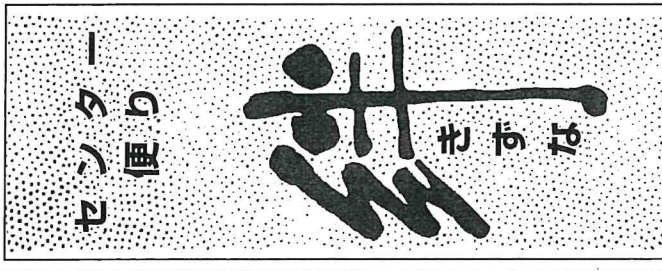
グでは、クリスチャンもノンクリスチャンも共に聖書を読みながら自分の話をする機会を設けています。さらに、同志社大学の実習生を受け入れています。大学生にとってはカフェで共に働くことによって、そこに関わる人々の背景や現状を学ぶだけでなく、苦境を生きて抜く彼らの力を知り、相互にエンパワーメントされる機会となっています。

バザールカフェの理念と目的は西陣会と共通するものを持っているように思います。西陣会は、「一人ひとりがその人らしく生き、大切にされ、お互い助け合って共に生きていける社会を目指しています。」また、「隣人を愛することによって平和と正義が確立されるという聖書の言葉を基盤とし、人間のかげがえのない価値と尊厳を守るために活動することを目的としています。」（引用：センター便り171号）これはまさにバザールカフェが目指す社会でもあります！助け合って生きるコミュニティ。そ

のような場所があちこちででき、その点と点がつながっていくことで、弱い立場にある人を大切にするという価値観も広まり、優しい社会が実現するのだろうと思います。

現在バザールカフェは、事業と雇用の安定のため法人化に向けて準備をしています。それに伴い社会福祉の制度に基づく事業も検討中です。その点で、社会福祉法人としての実績がある西陣会から学ぶことは多いと感じています。是非これからも西陣会の知恵と助言をいただきながら、いろいろな交流ができれば願っています。

バザールカフェは設立20周年を迎え、改めて自らの存在意義と使命を強く認識しています。人があるままで受け止められる場所、誰もが居られる場所、何があっても帰れる場所、ほっとできる場所、そんな場所であり続けるように、バザールカフェは歩みを続けていきます。



第177号

発行所
社会福祉法人
西陣会
HP: <http://www.nishijin.org>
E-Mail: nishijinkai@nishijin.org
〒602-8464
京都市上京区元智願寺千本東入ル
TEL (075) 451 - 8971
FAX (075) 451 - 5700

発行者: 水上 雄一郎
編集責任: 浅田 将之
郵便振替口座
01030-5-23086

ホームページでも
ご覧になれます

当法人への寄付
金は、課税控除
対象となりま
すので、その
為の受領書が
必要なら、下
方はお申し出
下さい。

東日本大震災で被災された東北の事業所を応援するため、物品購入・販売を2018年度まで行っておりまして。今回その残金を、「放射能問題支援対策室いすみ」と「会津放射能情報センター」に協賛金としてお送りしました。今号では、お返事いただいた「会津放射能情報センターNEWS」より、総会報告を掲載させていただきます。

第七期会津放射能 情報センター総会報告

代表片岡輝美

2011年3月11日に発生した東日本大震災から7年経つた今も、情報センターに集う私たちは「命を守ること」と「人権を取り戻すこと」にひたすら時間も労力も注いでいますが、それは、明らかに情報センターへの支援なしには為し得なかったことです。この年月、絶えることなく寄せてくださる励ましに深く感謝申し上げます。

第七期、センタースタッフはスポットファインダーでの測定に出かけ地図を作成しました。また、情報センター入り口には常時空間線量を測定し、ネット上で

数値が確認できるポイントキャストが設置されました。どこからでも情報センター入り口の数値を知ることができ、日常の現状把握また急な数値の変化にも気づくことができます。

他方、食材などの持ち込み測定は少なくなってきました。食品の測定が継続されたことで知識が増えたことも理由のひとつかと思われませんが、測定を継続し事実を確認していきましよう。

春の沖縄、夏の北海道の保養プログラムでは参加者は自然や食を堪能しただけではなく、遠く離れている

自分をいつも覚えていくれる人々に会うことができました。真冬、破裂した水道管が数か月掛けて修理され再開した「いがたはうす」も元自主避難者が集う一泊お泊り会も、多くの人々が支えてくださるからこそ継続できるプログラムです。

国内外から大学生や若い研究者の多くの来館がありました。トミバーケットさん（コロンビア大学文化人類学専攻博士課程）は今年初めから約一年間情報センターに滞在しインタビューを重ねています。原発震災が私たちの生活や人生にもたらした影響を調査し、いのちを尊ぶ社会を生み出す研究の現場として情報センターが用いられています。今期も山崎知行医師、小林恒司医師、今田かおる医師のご協力により健康相談会や甲状腺検査を行うことができました。感謝申し上げます。

2018年3月20日、原子力規制委員会（以下規制委員会）が出した2020年度末を目途に福島県内に設置されたリアルタイム線

量システム（以下MP）約2400台を撤去する方針に対して反対の世論が広がっていることは周知の通りです。しかし、2018年7月20日MP市民の会第2回原子力規制委員会交渉にて「再び不測の事態が起きても勝手に非難しないでください。MPを見に行ったら余計な被ばくをしますから。東日本大震災では情報がなくて避難しなくてもいい人まで避難した。今、信頼できる情報を伝えるシステムを福島県と構築しているので、万一の時には屋内退避をしてその情報に従ってください」と発言。原発核事故発生時の唯一の被ばく防護策とは真逆の発言は今後、原発核事故があっても住民の避難はさせるつもりはない国の意志として衝撃を受けました。

9月20日東電交渉に参加した際、東電は人工放射性物質トリチウム以外の放射性物質を含む高濃度汚染水放出に関してトリチウム以外の放射性物質の除去は不可能であり、残留していても仕方が無いと認識しているように見えました。この

ように「到底できないこと」を隠すために、福島原発核事故被害を「曖昧化」「見えない化」しているのが安倍政権、規制委員会、東電だと言えます。

情報センター活動の大きな柱である「数値の収集と情報の発信」と「人の思いに寄り添う」は保持したまま、次に続くテーマを「安全かどうかは私が決める」から「安全を確認するために測定を続ける」へ、「あなたはひとりではない」から「いのちを守るために私たちはつながる」へ発展させていきます。測定を積み重ねて出会って言葉を交わし繋がることから、一人ひとりが事実を知る力、真実を見抜く力、最も重要なことを見分ける力を身に付けていきましょう。

最後になりますが、昨年の自然災害により情報センターを支援してくださる多くの皆さまが被災されたことを、心よりお見舞い申し上げます。私たちが覚えてくださるように、私たちも皆さまの心や身体、日々の生活が守られることをお祈りしております。

地域生活支援二コース

西陣会居宅サービス係

子育てと仕事の両立

下口 早蓉子

私は今現在、子ども2人を育てながらフルタイムで働かせていただいております。勤務時間は保育園の時間に合わせて配慮していただいております。

また、子どもの体調で急なお休みや当日の早退等も快く受け入れてくださり、本当に職場の皆様を支えられています。子育てをしながら働くというこころとは、まわりの支えだったり、協力や働きやすい環境がないと難しいと感じております。

1人目の時には早くから事務所内での勤務に変えていただき、2人目の時には短時間勤務にさせていただきなどたくさん配慮いただきました。産前産後休暇や育児休暇もしっかりととらせていただきました。このような制度を使えることも大変ありがたいことだと思

います。今ある制度は今後も使っていくべきだと思っております。両立するためにも制度を使い、誰でも働きやすいと思える環境を今以上に作れたらと思います。

今は平日を中心に支援に入らせていただくことが多いですが、土日でしかお会いすることが出来ないご利用者さんの支援に行かせていただいた際に喜んでくださり、またご家族の方も子どもの話をしてくださり、貴重なお時間を大切にさせていただきますとともに私自身も元気をいただいております。

西陣会で働かせていただき約7年、働きやすい環境を作ってくくださる職場、皆様支えがあるからこそ今も楽しく育児や仕事が出来ています!!

デイセンターからこと

出逢いと別れ

ユニットリーダー 田中 尚樹

去る、2月18日に、ユニットのご利用者さんが病院にて、お亡くなりになりました。

僕が初めてお会いしたのは、2017年12月頃です。

初めは、環境(初めての場所や人)、精神状態や服薬等で、色々な面でした。抱えておられました。入院をされる事も有りましたが、今年の1月28日に退院され、体力的にも精神的にも、とても良い状態が続いておられました。その後は表情や会話も安定されており、デイ、ネイバーフッドきたまちの暮らしも楽しんでおられました。またご本人も発作や幻聴が聞こえる等のしんどい中ではありましたが、他ご利用者や、職員にも、いつ

も元気な挨拶や他人を思いやる温かい言葉をかけて元気づけて下さっていました。

2月17日から、危ない状



しようざんボウリング場にて

態が続いておられました。精一杯生きようとされた後に、天国へ逝かれました。只、お亡くなりになられる

がとうございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

前に、ユニット担当の職員が順番に、まだ呼吸が有る状態(意識はほぼありませんでしたが)で、お話しをする事が出来ました。皆が来るのを待つて下さっていた様な気がしました。ユニット担当の職員も、心配で心配で仕方がない中、常に平常心を保とうとしながら頑張つて下さっていました。最期は、ご家族の方々や西陣会職員で看取らせて頂きました。

精一杯生きようとされる力、お母様が息子様を思う優しさ、西陣会職員や関係者の温かさ等を、本当に間近で感じる事が出来ました。

教えていただいた事や、感じさせていただいた事を、皆で大事にしなが、改めて一日一日を大事にしていきたいと思

西陣会ホームとなり・きたまち

美味しい時間を共に過ごす

世話人 宮川 理 恵

昨年の五月、グループホーム「きたまち」開所に伴い、グループホームとなり「きたまち」での調理システムが大きく変わりました。今までは業者に献立と食材をセットで配達してもらっていたのですが、西陣会独自で献立を作成し、食材発注をダイセセンターふらっとの給食と、同じスーパーにお願いすることになりました。その中で一番の大きな変更点は、冷凍食材の使用頻度が減ったことです。施設での食事は、作業の効率化や価格面の問題から、どうしても冷凍食材や加工済み食品を使用することが多くなります。しかし家庭のような温かみのある食事を提供したいとの思いから、新鮮な野菜や、肉・魚を使うことになりました。そしてなるべく旬の食材を使い、季節に合った料理を提供できるよう努めています。

支援スタッフから「〇〇

さんが、このメニューを楽しみにされていましたよ」とか、「食事の彩りが綺麗って言うておられました」という話を聞いたり、ご家族の方からも「栄養バランスのとれた食事を食べさせてもらっているのが安心です」というお声を頂いたりするので、嬉しい限りです。西陣会の中で献立を作成しているので、ご利用者の希望を反映しやすいということも、大きな強みだと思えます。また、食べる人の反応が直接感じられるということが、私のやりがいにつながっています。

献立を考えていると、いろいろなご利用者の顔が浮かんできます。「〇〇さんはこのメニューが好きだから喜ぶだろうな」「××さん、前は食べられなかったけど今回はどうかな」と、常に私自身がドキドキし、楽しんで

以前、病院に勤め栄養指

導をしていた時、ある患者さんから「好きなものを我慢してまで長生きしたくない」と言われ、返す言葉に詰まったことがあります。その時に「食べてはいけない」「栄養指導に疑問を感じていました。ご家族の「健康で長生きして欲しい」という願いも、もちろん大切だと思いますが、やはり一番大切なのはご本人の気持ちですし、食事の時間は楽しみなものであって欲しいと思います。もちろん栄養バランスの良い食事を喜んで食べてくださる、ということが理想的ではあるので、ご利用者の生活に直接関わっているスタッフと連携をとり、苦手なものがあったらどうすれば食べてもらえるかを、一緒に検討していきたいです。

ご実家を離れて生活されているご利用者の方々にとって、食事がコミュニケーションの場であったり、食事を通して季節を感じたりと、心を豊かにするものでありたいと願い、これからも日々考えていきたいと思っています。

相談支援事業所きすな

でも、これが自分。たった一人の自分

所長 寺田 文

計画通りの人生を送ってきたとは到底言えない。そもそも、自分の人生においてどれだけの事を計画的に進めて決めてきたのか分からない。小学生の頃にはプロ野球選手になりたいと思っていたけれど今は全く違うし、大学生の頃でさえ今の姿を思い描いていた訳では無い。それでも、今と180度違う人生を歩みたくてと言われると何か違う。また、今後の人生に対して何か計画しているかと言われると具体的には思い浮かばない。ただ、おぼろげながらに描くライフプランはあつて、全く何も考えていない訳では無い。でも、それを実現する為に一直線に動いている訳では無い。

振り返ってみると、自分が今ココに居てコレをしている事は自分が決めてきた事のはずなのに、自分が決めた事では無いように思えてくる。何故なのか考えてみると、先の事を考えていない訳では無いけれど、その時々で目の前の事に一生

懸命だったと思う。また、その時に置かれている状況や関係性に流されてきた部分もあつたと思う。そして何より、その時々での人との出会いや別れを通じて、経験や価値観が培われ積み重なって、子どもや大学生の頃に思い描いていた姿とは違う36歳の自分になっているのだと思う。

「なりたかつた自分」と「なっている自分」少し違いかも知れない。でも「今の自分」が本当の自分。そして、「これからの自分」を作るのは今の自分。

人生を計画するって何だろう？ 計画は夢の実現への道標である一方、まだ見えていない可能性の芽を摘む可能性を孕んでいるようにも思われる。どんな人生を歩みたいか？ 本当にそれぞれ。他者と同じは無く、計画通りにいく事ばかりでは無いと思われる。

そんな、人の人生に携わる自分の役割の本質は何なのか……。まだまだこれから。

支援センター「きらりんく」

精神科医療との付き合い方

相談員 小野 紀代子

二月二十五日に開催された北部自立支援協議会全体会議に参加しました。「近くて遠い？精神科医療の敷居を下げる」というテーマの講演会でした。

北区・左京区は京都市内でも特に精神科病院の多い地域ですが、その詳細を知る機会はありません。今回は精神科で働くソーシャルワーカー三名のお話を聞きながら精神科医療の変遷・実情・退院支援の在り方などを学びました。

日本の精神科医療は長い間、社会防衛を目的とした隔離収容中心のもので「薬漬け」「長期入院」という良くないイメージにつながっていました。

しかし時代の変遷と幾度かの法改正を重ねた現在は患者の権利を擁護する視点から、入院期間の短縮化が図られています。また、抗

精神病薬の単剤化・計画に沿ったチーム医療など患者の意向や退院後の生活を尊重した実践が展開されるようになってきています。

講演の中で「患者さんにとって納得でき、なるべく負担の少ない形でつながってもらえる医療にしていきたい」「入院の意味をそのつど患者さんと共有したい」との言葉が印象的でした。日頃、わかりにくい・敷居が高いと思われがちな精神科ですが、その窓口にいるソーシャルワーカーと相談することで医療への不安感も軽くできそうです。

精神科医療機関から相談を受けることもある私どもとしては、お互いの得意分野を十分に活かしつつ、利用者のために良い連携を続けていきたいと考えています。

支援センター「にしじん」

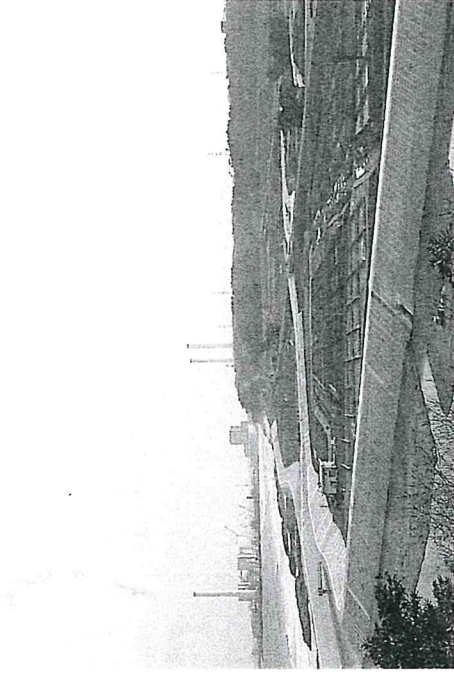
あの日を振り返り今思ふこと

センター長 宇川 征宏

もう、あの日から八年が経った。振り返ってみるとすごく長かったような、短かったような感覚。昨年度は、今までとは違い、活動として、福島県等に赴くことがなかったこともあり、少し離れた場所から、その地域の生活等を眺めていた。その中で、自分達が出来なかったことや、関わりきれなかったことに対して、苦しみつつも、その地で生き、歩もうとする仲間達を思い描く度に、申し訳ない気持ちになった。

二年前から、福島県から出てきた青年に関わっている。逃れ逃れて京都に来て私達と出会った。いろいろな理由で、実家に帰ることが許されていない。ただ、彼の実家や故

郷への思いは誰よりも強く、そのことへの想いが生活を荒れさせる原因の一つにもなっていた。私達は、いて



榎葉町の眺め

もたつてもいられなくなり、福島仲間と一緒に彼の実家に行くことにした。家に近づくとつれ、昂る彼の感情。小さい頃の思い出や家

族に叱られたことを教えてくれた。「帰りたい。」と願えど、言えど、今までは、その話さえ周囲に理解してもらえなかった。本人の抱く思いと一緒に山間の中の彼の家の前まで行ったものの、インターホンを押す勇気が私達にはなかった。「何しに帰ってきた。」と肯

定されず、追い返される彼を見たくなかった。また来ようと約束し、今回はその場を離れた。

今だに多くの方が故郷に戻れずに暮らしている。戻りたくても戻れない様々な理由がある。どこに住むことになってもその生き方を大切にしてもらいたいし、選んだ場所で生活をすることを応援し続けたいと思う。

自分自身、いい歳になってきた。今ひたすら前を向くだけではなく、今まで通ってきた道を時には振り返りながら、進んでいきたいと思う。

路地裏ステーションニュース

西陣児童館

出会いDE愛☆2冊の絵本から

館長 中山 あい

「おいでよ」

晴佐久昌英

ともだちの遊びの中に入りたいけれど、なかなか「よせて」が言えないとき、ともだちが呼んでくれる「おいでよ」は、心がぼつとあつたかくなるやさしい言葉。ころんでけがして涙が出た時、お母さんやお父さんの「おいでよ」と抱っこは、痛いのが飛んでいく魔法の言葉。ケンカして、くやしくて、誰かに話を聴いてほしいとき、ともだちと思いがすれ違つてさみしい思いをしているとき、「どうしたん?」「おいでよ」は、心に響く不思議な言葉。

誰かに受け入れられ、支えてもらっている安心感。その支えによって一歩ふみ出せたこと、強くなれた喜び。それらは、また別の誰かを支えていく、誰かに「お

いでよ」と手を差し伸べるやさしさにつながっていくのだと思います。

児童館は、「おいでよ」があふれる場所。門を開いて心を開いて、みんな、そのままの姿で「おいでよ」「いつでも待つてるよ」。そんな居場所でありたいです。

「あおくんときいろちゃん」 しおしお二

なかよしのあおくんときいろちゃんは、出会えた嬉しさでいっぱい。飛んだりねたりして遊んでいるうちにみどりになってしまいます。帰った家では「こんなみどりの子、しらないよ」と言われて、泣いて泣いて涙になって、またもとのあおくんときいろちゃんに戻ります。

児童館はいろんな色やいろんな持ち味を持った、か

けがえないひとりひとりの出会いの場。混ざり合つて、時にはぶつかり合つて、どんなユニークな素敵な色ができるのかはお楽しみ。お話のあおときいろの二つの色が混ざり合つて新しい色が生まれるように、人と人との心も溶け合つて、平和な色ができればいなあと思います。

青葉若葉が美しい、生命の息吹を感じる季節、児童館の新年度が始まりました。児童館は子どもたちの最善の利益を考える、子どもたちの幸せのための地域の中の拠点です。私たちは、空に向かって、子どもたちと一緒にぐーんと両手を広げ、可能性や希望や夢を高く大きく描いていきたいと思っています。



学童クラブ卒形式「ありがとうの花が咲くよ〜」

京都市障害のある中高生のタイムケア事業「ついで」 喉元過ぎれば? 喉元過ぎても?

副所長 小西 秀和

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」という言葉は、あんまり気持ちがい使われ方をしていない。

「苦しい経験も、過ぎ去つてしまえばその苦しさを忘れてしまう」とか、「苦しいときに助けてもらつても、楽になつてしまえばその恩義を忘れてしまう」とか、「熱さ」はネガティブな比喻として使われている。

ことしの春も、おおくの人がういずを果立つていった。ういずで過ごした時間は、一言でまとめるのはむずかしい。楽しいことしかなかつたわけでもないし、嫌なこともあつただろう。そんないろいろなことが混ざりあつた時間を一人ひとりが過ごしてきたというのが、ほんとうのところだと思ふ。

そんな時間を振り返るときがあるとしたら、「嫌なことは過ぎてしまえば忘れたい」「たとえ助けた側であつても、相手に恩義を忘れずにいてほしくない」と、わただつたら思ふ。そんな積極的な「喉元過ぎれば熱さを忘れよう」派だと自覚している。

でも、「熱さ」をういずで過ごしたポジティブな時間とするんだつたら、「喉元過ぎても熱さは忘れない」でいたい派でもある。

都合のよい話だけど、卒業したみんなにとって、ステキな「熱さ」だけが喉元過ぎても残ればいいなと思ふ。そんな「熱さ」が、いつの日か、じぶん自身をあたためるものであつてほしいと願いをこめて。その他のことは、ぜんぶ忘れてしまつとしても。



活動日誌

【本部業務・公益事業】

- 1月 4日 上京区社会福祉協議会「上京区民新春の集い」(浅田)
- 8日 京都市社会福祉協議会「新春福祉のつどい」(浅田)
- 9日 福祉就職フェア事前説明会(宮崎)
- 12日 サタデーナイト絆ふらウイジョン
- 15日 相乗自立支援協議会きたまち施設見学会
- 17日 社会福祉法人経営者セミナー(浅田・宮崎)
- 25日 月曜集会
- 26日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
- 27日 正規職員会議
- 28日 合同新年会(MYM)
- 産業医面談・安全衛生委員会
- 2月 4日 月曜集会
- 5日 職員登用試験
- 6日 伏見ふれあい福祉会きたまち施設見学会
- 7日 MYM自閉症についての学習会
- 17日 レクリエーション委員会「日本酒の会」
- 20日 総務委員会
- 23日 京都市社会福祉法人役員等研修会
- 新規採用職員オリエンテーション(浅田・宮崎)
- 23・24日 葛葉親睦会(浅田・宮崎)
- 手をつなぐ育成会全

- 24日 国大会京都大会
- 24日 東京都手をつなぐ育成会きたまち施設見学会
- 25日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
- 産業医面談・安全衛生委員会
- 28日 OJT担当職員座談会

3月

- 3日 福祉フェア(浅田・宮崎)
- 6日 京都信用金庫21世紀倶楽部例会(浅田)
- 18日 理事会・辞会交付式
- 23日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
- 23日 新規採用職員オリエンテーション
- 25日 産業医面談・安全衛生委員会
- 28日 月曜集会
- 上京区社協理事会(浅田)

西陣児童館

- 1月 26日 出前児童館(むかしあそび)
- 31日 基幹ステーション企画アイリッシュシモモンガコンサート

2月

- 1日 上京区人づくり21世紀中学生トーク(中山・野崎)
- 12日 華頂大学実習生受け入れ(23日まで)
- 20日 乾隆小学校運営協議会(中山)
- 21日 保健センター健診サポート(柴田)

3月

- 2日 学童クラブ新規利用保護者説明会
- 一緒にご飯を作っちゃいましょうDAY

- 8日・9日 学童クラブスプリング☆キャンプ
- 16日 出前児童館(もちつき)
- 学童クラブ保護者会
- 年度末懇親会
- 28日 学童クラブ卒部生に贈る会

【居宅サービス係】

- 1月 6日 集団活動企画「料理教室」
- 13日 居宅職員会議
- 28日 居宅介護等事業連絡協議会定例会(浅田・永瀬)
- 29日 サービス提供責任者会議

2月

- 2日・3日・17日 集団活動企画「いちご狩り」
- 3日 集団活動企画「料理教室」
- 10日 居宅職員会議

3月

- 1日 上京ねつと定例会「障がいのある人の性について話してみませんか?」(高田)
- 3日 集団活動企画「料理教室」
- 19日 上京区障害児者生活支援連絡会(近藤)

【デイセンターふらっと】

- 1月 11日 全体行事：書初め
- 1月末～3月上旬 利用者健康診断
- 2月 2日 お父ちゃん会
- 15日 日帰り旅行

- 18日 神戸家族会役員会
- 21日 新任職員研修二名
- 3月 18日 健康相談
- 19日 家族会交流会
- 20日 全体行事：カラオケ
- 30日～31日 パーティー
- 年度末休業日

【きらリンク】

- 1月 9・10日 医療的ケア児等コーディネーター養成研修
- 11日 北部自立支援協議会運営会議
- 24日 左京介護事業者連絡会障害程度支援区分審査会
- 29日 左京こころのふれあいネットワークワーキング会議

2月

- 10日 難病の在宅医療を考える講演会
- 15日 基幹センター会議
- 21・28日 相談支援事業者座談会・意見交換会(北部自立支援協議会・基幹支援センター共催)
- 25日 北部自立支援協議会全体会議
- 北部自立支援協議会児童部会

3月

- 9日 北部自立支援協議会支援センター部会
- 18日 支援センター連絡会
- 京都府社協日常生活自立支援事業審査会

- 23日 第9期京都発達精神医療ネットワーク研修会

【にしじん】

- 1月 9日・10日 医療的ケア児等コーディネーター研修
- 12日 マクロソーシャルワーク研修
- 18日 権利擁護ネットワーク会議
- 30日 相談支援専門員等スキルアップ研修

2月

- 13日 上京心のふれあいネットワーク会議
- 21日 相談支援専門員カフェ
- 22日 下京心のふれあいネットワーク会議
- 23日 暮らしねっとフォーラム奈良
- 28日 支援センター会議
- 医療的ケア専門懇談会

3月

- 1日 ノウフク連携会議
- 12日 医療的ケア専門部会懇談会
- 23日 同志社定例会カンファレンス
- 28日 上京区評議委員会

※毎月、施設長会議・主任会議を実施しています。その他、諸事業諸活動においても定例活動を行っております。

センター往来

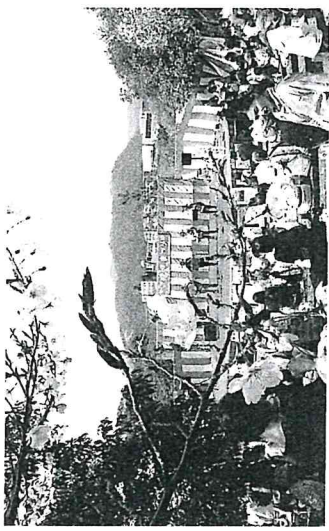
◎1月27日(日)西陣会合同新年会を行いました。総勢43名のご参加をいただきました。お鍋を囲み、ビンゴゲームなど行い皆さまと親睦を深めることが出来ました。誠にありがとうございました。

◎2月28日(金)宇陀市障害者自立支援協議会の12名の方々が視察研修のために児童館に来られました。

◎3月9日(土)理事会、3月24日(日)評議員会が開催されました。2019年度予算と事業計画が承認されました。

◎タイムケア事業ういずの12人の高校生たちが卒業しました。ういずの最終利用日には、ひとりひとりに卒業証書を渡し、「旅立ちの日に」を合唱しました。素敵な仲間たちとの出会いに感謝し、ひとりひとりの輝く未来へ、心からエールを贈ります。

◎4月7日(日)青天の下、桜まつりを開催できました。心より、皆様へ感謝申し上げます。



心もおなかも満腹♡サイコロの桜日和でした。

地域生活支援事業 バックアップ会員報告

皆様から心温まる会費を頂き心より感謝申し上げます。

二〇一八年度報告

榎井 治子 小西 秀和
鬼塚 義正

(順不同、敬称略)

計 七〇(七十円)
累計 百十四万四百四十円
二〇一九年三月三十日現在

郵便振替口座(バックアップ
会員専用振替口座)

加入者名

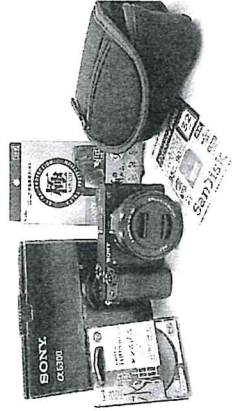
地域生活支援事業委員会
口座番号

〇〇九〇〇三二二三七一九

今後ともどうぞよろしく
お願い申し上げます。

心より感謝申し上げます

。株式会社深田商店様より、「京銀私募債『未来にエール』(次世代を担う子どもたちへ)」発行記念として、タイムケア事業ういずへ「デジタル一眼レフカメラセット一式」をご寄贈いただきました。



。シェアハウス小松原の家に、京都新聞福祉活動支援の設備助成として十五万円をいただき、冷蔵庫を購入させていただきました。

。児童館耐震補強及び外壁塗装工事のために、西陣学童クラブ保護者会様より、43万円のご寄付をいただきました。

※お祝い

◎1月30日、西陣会居宅サービス係職員の森勇輝さんに女の子がご誕生されました。おめでとうございます。

◎2月17日、西陣児童館職員の松井美穂さんが入籍されました。おめでとうございます。

計 報

一月二十一日、ご利用者の奥村展祥さんがお亡くなりになりました。

二月十八日、ご利用者の中嶋弘道さんがお亡くなりになりました。

三月十二日、元ヒーボの保護者長井八重子さんがお亡くなりになりました。

みなさまの天上での平安を心よりお祈りいたします。

職員人事(常勤職員)

退職(3月31日付)

居宅サービス係

濱上久美子

山崎 喜則

デイセンターふらこと

小島 伸一

西陣児童館

植木 瑞己

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075)451-5700 迄ご連絡下さい。

社会福祉法人 西陣会

。法人本部
。京都市民福祉センター
。地域活動支援センター
。ふらこと

。地域生活支援事業
レスパイトサービス
TEL(075)451-1921
FAX(075)451-1570

。西陣児童館
。京都市障害のある中高生の
タイムケア事業ういず
TEL(075)451-1921
FAX(075)451-1570

。西陣会居宅サービス係
相談支援事業所 まぎすな
TEL(075)427-1100
FAX(075)441-1591

。デイセンターふらこと
TEL(075)427-1100
FAX(075)441-1591

。西陣会ホーム とほり
。シヨートステイ ゆづ
TEL(075)461-3066
FAX(075)441-1591

。西陣会ホーム きだまち
TEL(075)461-1155
FAX(075)461-1155

。京都市中部障害者地域生活
支援センター にじん
TEL(075)471-1630
FAX(075)471-1639

。京都市北部障害者地域生活
支援センター きらりんく
TEL(075)751-0106
FAX(075)751-0107